学校（　豊見城市立伊良波中学校　）　担当教科（　教頭　）　氏名（　内山直美　）

授業タイトル：「5.15 から考える沖縄県」「10.30 から考える沖縄県」

実施時間	令和４年４月～令和４年 10 月	対象学年	中学２年生
単元名 （教科書会社等）	総合的な学習の時間 「沖縄の平和について SDGs の視点で考えよう」		

【SDG s の視点を入れた単元づくりについて】

今年は沖縄が日本に復帰して 50 年を迎え、沖縄県は復帰 50 周年記念事業の趣旨として「復帰から今日までの歴史を振り返り先人たちの労苦と知恵に学ぶとともに、沖縄の自然や文化等の魅力を県民と共有し、産業等の新たな展望や大型プロジェクト等を広く情報共有、発信することにより、本県の自立的発展と住民が豊かさを実感できる社会の実現に資するものとする。」と示した。この機会を学びのチャンスとし、「沖縄×平和学習」のパッケージ化を図ることで体系的に学びを深めることができると考えた。総合的な学習の時間を通して沖縄県の象徴的な日を取り上げ、平和教育と関連付けた取り組みを展開した。さらに、9 月を「SDGs 月間」として、世界で起こっている課題が自分と関係の深い現象であることも関連させながら学ぶ単元計画を試みた。

【単元計画】

4/26（火）2 時間 「4.28 から考える沖縄県」（ワークショップ）

5/10（火）2 時間 「5.15 から考える沖縄県」（ワークショップ）　※指導略案添付

5/24（火）2 時間 『語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶』（視聴・講義）

5/31（火）2 時間 「戦争体験者から学ぶ」『語り継ぐ受け継ぐ豊見城の戦争記憶』からまとめ（はがき新聞）

6/ 7（火）2 時間「戦争遺跡から学ぶ」『豊見城市の戦跡』（調べ学習）

6/14（火）2 時間「地域の戦争遺跡」（調べ学習）

6/16（木）2 時間「海軍壕について」（調べ学習）

6/22（水）6 時間「旧海軍司令部壕」（講義＋見学）

7/ 5（火）2 時間「平和学習のまとめ」（はがき新聞）

7/12（火）2 時間「平和学習発表会」（学級）

7/19（火）2 時間『持続可能な社会に向かって～SDGs を知ろう・考えよう』

8/30（火）1 時間 「私と SDGs」はがき新聞作成

9/ 6（火）2 時間「スマホ×SDGs」（ハイブリット）※講師

9/13（火）2 時間「ファッション×SDGs」（ハイブリット）※講師

9/20（火）2 時間「プラスチック×SDGs」（ハイブリット）※講師

9/27（火）2 時間 「スマホ×ファッション×プラスチック」（新聞作成）

10/4（火）2 時間「SDGs 新聞発表会」（学級）

10/18（火）2 校時「10.30 から考える沖縄県」（リモート）　※指導略案添付

10/24（月）2 時間「世界のウチナーンチュから学ぼう～アルベルト城間さんを招いて～」

指　導　略　案

対象学年	中学校２年生９学級	授業者	内山直美
題　材　名	『５．１５から考える沖縄県』		
本時のねらい 【資質・能力】	沖縄が祖国復帰50年を迎えるにあたり、復帰についての知識を習得するとともに、復帰までの沖縄の現状を理解すること、自分の意見をまとめ表現することで、思考力、判断力、表現力等を養いたい。その場合、資料の活用、グループでの対話を通して考える。		
本時の手立て 【授業改善】	①主体的な学び：新聞記事から当時の沖縄の様子を理解する。 ②対話的な学び：対話を通して新聞の見出しを考える。 ③深い学び：復帰によって沖縄が変わったこと変わらないことを出し合う。		
問いが生まれる場面 【見方・考え方】	なぜ、沖縄の人々は祖国復帰を望んだのか。米軍統治下で起きた出来事を写真を活用した学びから、沖縄の人々の祖国復帰への思いを考える。		

〔授業の流れ〕

時　間	授業の流れ	ねらい	教材／教具／留意点
導　入 １０分	①沖縄にとって5月15日は何の日か。 ・母子手帳の比較 ・1972年5月15日	・1952年4月28日（サンフランシスコ講話条約）と関連する写真を見て学習を振り返る。 ・復帰前の母子手帳と復帰後の母子手帳を比較して考える。 ・復帰関連の新聞記事から興味を引き出す。	・母子手帳を通して、過去の沖縄の歴史を知る。 ・前時で学習した内容を確認する。
展　開 ３０分	②グループで写真から読み取ろう。 （10分）	・復帰前後の出来事を取り上げた８枚の写真をグループに提示する。 ・写真から気づいたこと、見出しを考える。 ・写真から読み取れる現状を話し合う。	・各グループが大見出しを書き出しやすい新聞を準備する。 ・自由な発想で気づきを行えるよう配慮する。
	③各グループの発表 （教師の説明も含む） （20分）	・各グループで話し合った内容を全体で共有する。 ・教師の補足・説明を入れる。	・各グループの気づきを褒める。 ・各グループの写真の補足を適宜行う。
まとめ １０分	④ＶＴＲの視聴（５分） ・復帰で変わった変わらないもの	・復帰 30 周年で制作されたＶＴＲの視聴。 ・学習の振り返り	・教師の実話や話しを聞くことで身近な社会で起こった歴史的事実を知る。

本時の評価 【形成的評価】 ワークシートより	①1972 年 5 月 15 日前後について理解する。【知識・技能】 ②当時の人々の思いを知り、現在の沖縄の課題とつなげ考えることができる。【思考・判断・表現】 ②写真から読み取り、グループで議論を深める。【主体的に学習に取り組む態度】
本時で活用した教材	・琉球政府時代の母子手帳　・復帰前後の写真　・復帰 30 周年映像

指　導　略　案

対象学年	中学校２年生９学級	授業者	内山直美
題　材　名	『１０．３０から考える沖縄県』		
本時のねらい 【資質・能力】	沖縄県は日本有数の移民県であり、世界には約 42 万人もののウチナーンチュが沖縄の文化や絆を大事にし生活している。本時は、「世界のウチナーンチュ大会」の様子から、沖縄県系の人々の沖縄を誇りに思う気持ちや、文化の継承やアイデンティティの確立に対して自分の考えや意見を述べることができるような授業展開に取り組む。さらに、沖縄移民を学習することで、地域の特性や他地域との共通性を学び、自分の地域を誇りに思う気持ちや地域へ参画する力の育成に心がけたい。		
本時の手立て 【授業改善】	①主体的な学び：「世界のウチナーンチュ大会」の映像やクイズで興味を持って学ぶ。 ②対話的な学び：写真活用「フォトランゲージ」で、移民１世の生活の様子を大観する。 ③深い学び　　：「世界のウチナーンチュ」が沖縄を誇りに思う気持ちを考える。		
問いが生まれる場面 【見方・考え方】	「なぜ、世界のウチナーンチュは沖縄を誇りに思うのだろうか」から、世界のウチナーンチュが思う沖縄への思いと、自分が抱く沖縄への思いを比較し考える。		

〔授業の流れ〕

時　間	授業の流れ	ねらい	教材／教具／留意点
導　入 １０分	①「世界のウチナーンチュ大会」の映像	・学習課題を見つけるために、映像視聴やウチナーンチュのインタビュー映像を見て、視点を導く。	・第 6 回「世界のウチナーンチュ大会」のニュース映像を試聴する。
展　開 ３０分	②世界のウチナーンチュクイズ	・沖縄から海外に移民した割合 ・日系人の多い国はどこか ・現在およそ何人の日系人 ・およそ何人に沖縄県系人 ・沖縄県系人はどこの地域	・沖縄県は日本有数の移民県である。1898 年（明治 32）当山久三が 26 人の移民を送り出した。海外移住者は、戦前・戦後あわせて約 10 万人。現在では、全世界で約 40 万人いる。
	③フォトランゲージ ・8 枚の写真から、沖縄移民の歴史に触れる。 ④フォトランゲージの発表と教師の解説 ・８枚の写真の国名や時代背景、移民者の生活などを解説する。	・沖縄の人々が世界に飛び立った現地の写真にタイトルをつける。（いつ頃、どこの国、どのようなことが写真に写っているか）	・1902 年ハワイ・オアフ島 ・1910 年頃ブラジル・サンパウロ ・1910 年頃カナダ西部 ・1940 年頃フィリピン・ダバオ ・1940 年前後ペルー・リマ市 ・1960 年頃ボリビア移住地
まとめ １０分	⑤世界のウチナーンチュが沖縄を旅立つときの気持ちを考えよう。	・沖縄にとどまるのではなく、世界に羽ばたいて世界を知ることは、沖縄の良いところの発見にもつながる。沖縄は世界を平和にしていく島でもあることに気づかせる。	・「片手に三線を」の視聴と、アルベルト城間のメッセージを読む。

本時の評価 【形成的評価】 ワークシートより	①沖縄移民の歴史事象について理解する。【知識・技能】 ②沖縄県系人の沖縄を誇りに思う気持ちや、文化の継承、アイデンティティの確立に対して自分の考えや意見を持つ。【思考・判断・表現】 ③写真から読み取り、グループで議論を深める。【主体的に学習に取り組む態度】
本時で活用した教材	『レッツスタディ！世界のウチナーンチュ』、世界のウチナーンチュ関連ニュース映像